

NX7700x/A8010E-2, A8010E-2c, A8012M-2

ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇Index

- 1) はじめに
- 2) 装置起動時に発生する事象について
- 3) システム ROM の機能に関する注意事項
- 4) iLO 7 の機能に関する注意事項
- 5) OS に関する注意事項
- 6) 全般の機能に関する注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル <<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの Starter Pack の項を参照)

なお、使用する Starter Pack については、別途 Web 公開している「OS と Starter Pack の対応表」を参照ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html?>

対象装置のマニュアルを参照願います。

● VMware ESXi/ESX のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi/ESX のドライバ・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの ユーティリティの項を参照)

2. MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「エンタープライズサーバ(NX7700x シリーズ)」を参照)

3. VMware ESXi/ESX デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「エンタープライズサーバ(NX7700x シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバ一覧」を選択)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) 装置起動時に発生する事象について

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、まれに「Memory Initialization - Start」のメッセージを表示し、POST 停止することがあります。本事象発生時は、以下の手順で復旧してください。

- ① 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェースにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
- ② 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェースにある Power アイコン)を押して、本体装置が正常に起動することを確認してください。

事象発生時の POST メッセージ

```
NEC NX7700xSystem BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

3) システムROMの機能に関する注意事項

● システムユーティリティ上の内蔵 DVD ドライブの表示について

システムユーティリティ上で、内蔵 DVD ドライブの名称が正しく表示されません。
本事象は表示のみであり、機能には影響はありませんのでそのままご使用いただけます。

(*) 正しい内蔵 DVD ドライブの名称は、Windows OS のデバイスマネージャーで確認できます。
Linux OS の場合は「lsusb -v」コマンドにて確認できます。

● Minimum Processor Idle Power Core C-State オプション、および Minimum Processor Idle Power Package C-State オプションの注意事項

以下の設定は工場出荷時のまま使用してください。設定を変更した場合、訂正不可能なマシンチェック例外や PCI Express エラーが発生し、システム停止に至ることがあります。

- ・ 対象設定および工場出荷時の設定
 - Minimum Processor Idle Power Core C-State : No C-States
 - Minimum Processor Idle Power Package C-State : No Package State
- ・ 設定箇所
 - 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options
 - > Minimum Processor Idle Power Core C-State」
 - 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options
 - > Minimum Processor Idle Power Package C-State」

また、Workload Profile オプションを以下の設定へ変更した場合にも、上記2項目の設定が変更されることがあります。

- ・ General Power Efficient Compute
- ・ General Peak Frequency Compute
- ・ General Throughput Compute
- ・ Virtualization - Power Efficient

Workload Profile オプションの設定変更後に上記2項目の設定を確認し、設定が変更されていた場合は、必要に応じて Workload Profile を [Custom] に設定したうえで、No C-States および No Package State へ再設定して使用してください。詳細は、メンテナンスガイド(共通編)にある「ワークロードプロファイルの設定時の依存オプションについて」の章を参照してください。

4) iLO 7の機能に関する注意事項

● iLO の再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iLOの再起動(*1)を行わないでください。

- ・ サーバー起動からOSの起動完了までの間 (POST実行中も含む)。
- ・ システムユーティリティの操作途中。

(*1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。

例えば、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの「Information > Overview」ページにおけるUUID、UUID (論理)の表示が不正な値となる場合があります。また、システムユーティリティの設定変更など操作の途中でiLOの再起動(*)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) で「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報が消失してしまう場合があります。(*2)

もし、上記のような、不正な表示や動作が発生した場合は、本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- ・ iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

(*2) Serial Number、Product IDの復旧方法については、メンテナンスガイド (運用編)の「トラブルシューティング」>「補足事項」>「Serial Number、Product IDが消失してしまった」の章をご参照ください。

● iLO のダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO の拡張ライセンスがインストールされている場合、「Security > Access Settings > Update Service > Downgrade Policy」の設定を[Permanently disallow downgrades]に変更しないでください。

[Permanently disallow downgrades]に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、Set to factory defaults オプションからiLOを出荷時のデフォルト設定に戻しても、その他のiLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定を行っても、[Permanently disallow downgrades]設定は維持されたままになります。

● iLO Web インターフェースのセキュリティアイコンに関する注意事項

RBSU の設定やiLO の設定の内容によって、iLO Web インターフェースのダッシュボードやセキュリティにおいてリスク (赤色)が表示される場合があります。

「Security > Overview > Security Parameters」にて構成の内容を確認することができますので、お客様のセキュリティポリシーに応じて適切なセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 7 ユーザーズガイドを参照してください。

iLO の負荷の状態により「Information > Security Dashboard」の「全体セキュリティステータス」が『リスク』であっても、iLO Web インターフェース画面の右上部の「iLO セキュリティ」アイコンが無色になる場合があります。

「Information > Security Dashboard」の「全体セキュリティステータス」が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLO の時刻設定について

iLO の時刻設定については、適切な時刻補正を行うために、iLO Web インターフェースにて SNTP の設定を行い、NTP サーバーを利用した定期的な時刻の自動補正が行える状態でご使用いただくことを推奨します。

iLO の SNTP の設定方法については、iLO 7 ユーザーズガイドを参照してください。

● RESTful API ERROR が発生した場合の対処について

POST 実行中、稀にRESTful API Errorが発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(*)からのiLOへのアクセスが正しく行えないことがあ

るため、iLO の再起動を実施してください。

※ ESMPRO/ServerAgentService、RAID 通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

例 : Severity:Caution、Event Class : 0xA (UEFI)、Event Code : 0x333 または 0x338
Description : %1 RESTful API Error - Unable to communicate with %2 FW.
BIOS configuration resources may not be up-to-date.

● iLO Web インターフェースの Agentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェースの「Dashboard > Host Overview > AMS」のステータスが不明(または利用不可能)※と表示されている場合、Agentless Management Service (AMS) のアプリケーションアカウントを作成しているかご確認ください。

Agentless Management Service (AMS) のアプリケーションアカウントを作成していない場合は、下記の Web サイトに掲載されている「Agentless Management Service (AMS) をご使用時の注意事項」の最新版の内容を確認し、アプリケーションアカウントを作成してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの Starter Pack の項を参照)

Agentless Management Service (AMS) のアプリケーションアカウントを作成している場合でも AMS のステータスが不明(または利用不可能)※と表示されている場合は iLO リセットを行ってください。続いて 10 分程度待って、以下の Agentless Management Service (AMS) の再起動方法に従って、Agentless Management Service (AMS) を再起動してください。

<Agentless Management Service (AMS) の再起動方法>

- ・ Windows の場合
「Windows の管理ツール > サービス」で「Agentless Management Service」を右クリックし、再起動してください。
- ・ Red Hat Enterprise Linux 9.x の場合
以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad  
# systemctl restart amsd
```

- ・ VMware ESXi 8.0/ESX 9.0 の場合
以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

※ Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、一部の情報が取得できず、iLO Web インターフェースの「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers」や「Host > Hardware > Network」の情報が正しく表示されません。

また、この影響により、ESMPRO/ServerManager による IML 監視やエクスプレス通報などが正しく行えない可能性もあります。

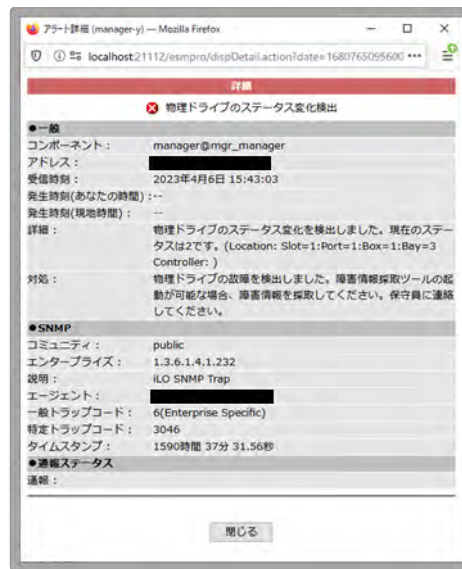
● 物理ドライブの通報に関する注意事項

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエクスプレス通報が通知されません。

また、ESMPRO/ServerManager アラートビューアでは「物理ドライブのステータス変化検出」が通知され、詳細欄のステータス値は「2」が表示されます。

いずれも、iLO7 の仕様による動作です。

(*) ステータス値の「2」は正常 (OK)、「3」は異常 (Failed) を示します。



● iLO Web インターフェースでの NE3304-222/222L/224/224L 搭載時のネットワーク表示について

NE3304-222/222L 1000BASE-T 接続 LOM カード (4ch)、あるいは NE3304-224/224L 1000BASE-T 接続ボード (4ch) を複数枚搭載している場合に iLO Web インターフェースの「Host > Hardware > Network」で同じ搭載位置に表示されますが、無視してください。

正しい搭載位置は「Host > Hardware > Network」で確認してください。

● iLO Web インターフェースでのネットワーク表示について

- ・ iLO7 ファームウェアバージョン 1.21.00 の場合、iLO Web インターフェースの「システム情報 > ネットワーク」のアダプターごとに表示される「ネットワークポート」情報において、OS 起動後に LAN ケーブルが接続していないポートの「リンクステータス」が「不明」ではなく「リンクダウン」と表示されることがあります。LAN ケーブル未接続のポートの「リンクステータス」が「リンクダウン」と表示された場合は無視してください。
- ・ iLO7 ファームウェアバージョン 1.21.00 の場合、VMware ESXi/ESX において、ネットワークケーブルの切断等により任意のポートのリンクダウン発生後、リンクステータスが回復した場合、IML に記録される "All links are down in adapter" (クリティカルイベント) が "At least one of the links is up." (修正済みイベント) に変更されることがあります。
iLO Web インターフェースの「システム情報 > ネットワーク」のアダプターごとに表示される「ネットワークポート」情報において、いずれかのポートの「リンクステータス」が「OK」と表示されている場合、"At least one of the links is up." (修正済みイベント) 相当の状態であるとみなしてください。

5) OSに関する注意事項

● RAID 監視通報方式について

VMware ESXi/ESX において、RAID 監視通報は SNMP Trap をご利用ください。
詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

- ・ NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● VMware OS ご利用時の注意

TPM Visibility オプション(*1)を「Visible」に設定して、VMware OS をご利用される場合、OS インストール時に生成される Recovery Key を、必ず保管してください。

Recovery Key は、TPM 2.0 Operation オプション(*2)を「Clear」に設定することによる TPM 内部情報のクリアや、保守対応時に必要となります。

(*1) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options > TPM Visibility

(*2) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > TPM 2.0 Operation

Recovery Key の詳細については、以下の Broadcom 社のドキュメントをご確認ください。

- ESXi8.0 : セキュアな ESXi 構成の管理－セキュアな ESXi 構成のリカバリ

<https://techdocs.broadcom.com/jp/ja/vmware-cis/vsphere/vsphere/8-0/vsphere-security-8-0/securing-esxi-hosts/securing-the-esxi-configuration/managing-a-secure-esxi-configuration.html#GUID-30DA8CC1-5D9F-4025-B5DB-6D592B6BD9B4-en>

- ESX9.0 : セキュアな ESX 構成の管理－セキュアな ESX 構成のリカバリ

<https://techdocs.broadcom.com/jp/ja/vmware-cis/vsphere/vsphere/9-0/vsphere-security/securing-esxi-hosts/securing-the-esxi-configuration/managing-a-secure-esxi-configuration.html>

6) 全般の機能に関する注意事項

● NE3303-248/248L/249/249L/250/250L/251/251L/252/252L RAID コントローラご使用時の注意事項

NE3303-248/248L/249/249L/250/250L/251/251L/252/252L RAID コントローラのファームウェアバージョンが以下の場合、複数台のNMeドライブ接続時に、システムユーティリティのワンタイムブートメニュー(One-Time Boot Menu)において、物理位置を示す Bay および Box 情報が表示されず、ドライブの物理位置を特定できない場合があります。

対象ファームウェアバージョン : 52.30.3-5917

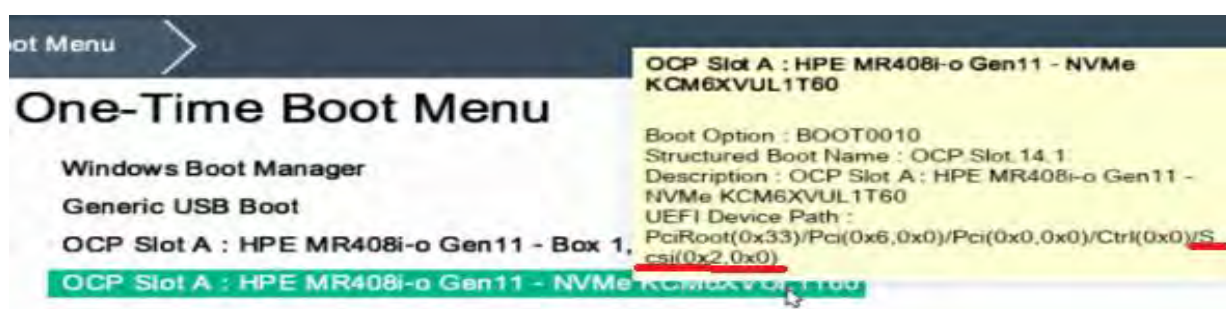
なお、本事象はNMeドライブ接続時のみ発生し、SAS または SATA ドライブ接続時には発生しません。

また、RAID コントローラのファームウェアバージョン 52.32.3-6333 にて改修されています。

＜確認手順＞

ワンタイムブートメニューで SCSI ID を確認し、iLO Web インターフェースにて Bay および Box 情報を特定してください。

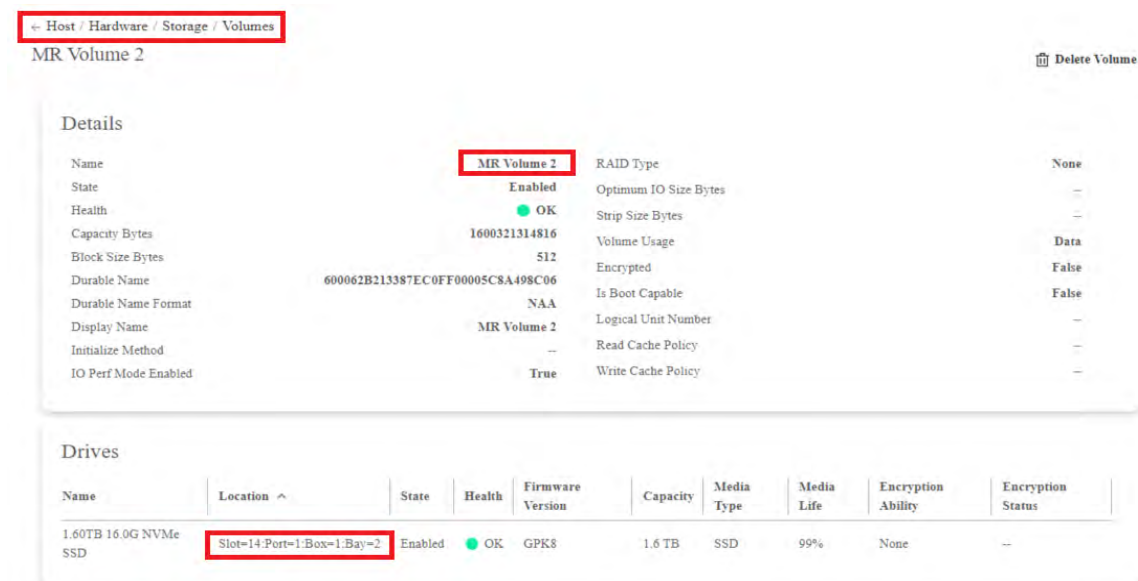
- ① ワンタイムブートメニューを開き、SCSI ID を確認します。下記例では SCSI ID が「2」となります。



- ② 次に、iLO Web インターフェースの「Host > Hardware > Storage > Volumes」に移動し、ボリューム情報を表示します。

(または「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers > (Controller 名)」)

- ・ 表示されるボリューム ID は、ワンタイムブートメニューで確認した SCSI ID に対応しています。下記例では「MR Volume 2」が SCSI ID=2 の物理ドライブに対応します。
- ・ 「MR Volume 2-Drives-Location」にて Bay および Box 情報を確認できます。下記例では Bay=2、Box=1 となります。



● NE3315-44/44L トップカバーオープン検知キットご使用時の注意事項

NE3315-44/44L トップカバーオープン検知キットは、装置のトップカバーが開かれても、POST で警告メッセージを表示しません。

トップカバーが開かれたことを検知すると、サーバーの Health Status が警告に変化し、ステータスランプがアンバー色で点滅、および、以下のイベントが Integrated Management Log (IML) に記録されます。
イベントを参照して、トップカバーの開閉の有無を確認してください。

例: "Caution", 0x0002, "Machine Environment" 0x002F, Intrusion Alert Detection - The server chassis hood is currently not installed."

あるいは、

"Caution", 0x0002, "Machine Environment" 0x0071, Intrusion Alert Detection - The server chassis hood was removed XXXX."

● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、またはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● USB DVD ドライブ ご使用時の注意

POST の実行中または BIOS/Platform Configuration (RBSU) の操作中にメディア入り USB DVD ドライブを接続するとキーボード・マウスの操作が一時的に行えなくなる場合があります。

約十数秒間経過してから操作を行ってください。

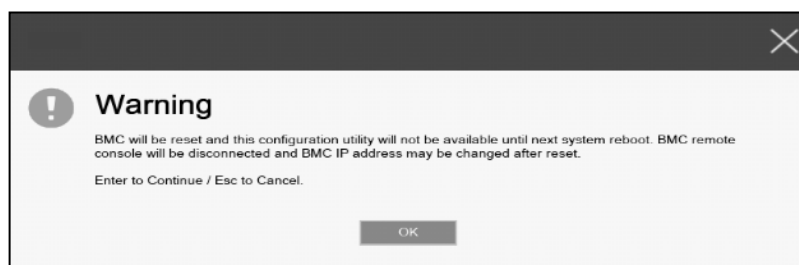
● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID などが消失することがあります。

Serial Number、Product ID などが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイド(運用編)の「トラブルシューティング」>「補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の章をご参照ください。

- ① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されます。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- ② 「OK」を押して進めます。

- ③ iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。

プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。

もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。

The management processor reset in progress...

Reboot the server when the operation completes.



英語表示の場合

管理プロセッサのリセットが進行中です...

処理が完了したらサーバーを再起動してください。



日本語表示の場合

④ 3分以上経過後、以下を確認します。

A. 本体操作時

対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。

- iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒 1 回)
- iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯

B. リモート (iLO Web インターフェース) 操作時

対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。

⑤ ④において、の再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。

⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft(R)、Windows(R)、Windows Server(R)、は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel(R)、Xeon(R) は米国 Intel Corporation の登録商標です。

Linux(R) は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat(R)、Red Hat Enterprise Linux(R) は米国 Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term “Broadcom” refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

NEC

2026年6月 第2版



CBZ-067604-001-01